

28 ヒラメ稚魚分布量からの漁獲加入量の予測

福島県水産試験場 栽培漁業部
平成11年度水産試験場事業報告書
分類コード 19-04-40000000

部門名 水産業－資源管理－ヒラメ
担当者 渡邊昌人

I 新技術の解説

1 要旨

ヒラメ（天然魚）は夏期に発生し、8～9月には全長5cm程度に成長するが、ヒラメ資源管理として全長30cm未満の小型魚を漁獲規制しているため、漁獲加入までには、発生から1年以上の期間を要する。漁獲開始以前に新規漁獲加入量の規模を把握する事は、資源の有効利用を図る上で重要なことである。

図1は桁網および自家用釣餌料板びき網における単位時間あたりのヒラメ稚魚採集尾数を年次別調査日別にプロットしたものである。また、表2は年級群別年齢別天然ヒラメの漁獲尾数を示したものである。平成6年、7年は8月から12月頃まで長期に渡って稚魚が採集され、これらの年級群の漁獲尾数は他の年級より多く、逆に、平成8年のように稚魚の採集が10月頃と遅い場合は、漁獲尾数も少ない傾向にあった。このことから、毎年、稚魚の分布状況を調査し、採集時期、分布密度を過去の調査結果と照合することで、翌年の漁獲加入の大きさを漁獲開始以前に予測することが可能となった。なお、平成6年以降のヒラメ稚魚の採集時期と分布量から、ヒラメ天然魚の発生状況を評価すると表1のように整理される。

2 期待される効果

予測されたヒラメ漁獲加入量を情報として漁業者に提供することにより、ヒラメ資源を有効に利用した形での適切な漁獲が可能となる。例えば、漁獲加入量が多いと予測された年級群は成長が遅れるため、9月の底びき網漁業解禁時点で漁獲規制値の全長30cmに満たない小型魚が数多く分布することになる。小型魚が多く分布する浅い海域での操業を控えるよう指導し、無駄な漁獲を減らすことが可能となる。

3 適用範囲

県内の底びき網漁業者および関係漁業団体

4 普及上の留意点

漁獲加入量を予測するための稚魚分布量が多くとも、発生時期が遅れると通常より小型サイズで越冬することとなり、減耗率が高まり漁獲加入量が減少してしまうことがあるので予測の際は留意すべきである。